

選考委員長講評

梅光学院学院長・梅光学院大学学長 樋口 紀子

「女性いきいき大賞」は今回で14回目を迎え、これまで503もの団体が応募して下さっています。

今回の応募団体は31団体で昨年に比べ大変多かったこと、そのうちの25団体が新規応募団体であったことが特色です。その活動内容も幅広く、それぞれに工夫しながら活動しておられる様子がうかがえ、審査が大変難航しました。

1次選考では各分野を念頭におきながら10団体にしぼり、2次選考で優秀賞4団体を選びました。その中から例年通り最優秀賞を選びましたが、その評価基準は活動の継続性、地域への広がりやその影響力、独自性、今後の可能性等です。

優秀賞はその活動内容から甲乙つけがたく最優秀賞は審査が拮抗しましたが、厳正な審査の結果、「NPO 法人 やまぐちレーテ子育て Bambini」が最優秀賞に選ばれました。それは、活動の継続性と今後の可能性が一番評価されたからです。奨励賞の2団体も今後の活躍が期待されるということで選ばれました。また、学生の部での受賞団体は「山口学芸大学 子どもの木サークル」ですが、この大学からの応募は初めてで、学内だけの活動にとどまらず、他団体との積極的な交流等を評価しました。また、県内の他大学への今後の応募に対するPRという意味も含めています。

最優秀賞、優秀賞団体の授賞理由は以下の通りです。

○「NPO 法人 やまぐちレーテ子育て Bambini」(最優秀賞・山口県知事賞)：地域づくり分野

15年間地道に活動してこられたこと、さらなる発展を求めてNPO法人を立ち上げたという勢いに対して今後の活動に期待できると判断しました。また、働くママたちへの応援を旗印に、自分たちだけではなく、専門家であるキャリアカウンセラーを巻き込み、相談会を実施していることや、単なる学童保育の枠を超えて、さらに学習指導を行っているなど、多岐にわたる活動が評価されました。名称に「子育て」とありますが、子育てを地域で支え合う仕組み作りに尽力し、シニアの社会参画など子育てを地域で取り組んでいることを鑑みて、「地域づくり分野」での受賞となりました。

○「山口子どもの文化研究会」(優秀賞・朝日新聞社賞)：子育て分野

これまでの活動の継続性やその実績が評価されました。特に、「長州ファイブ」や「大内塗り人形」「赤間硯」など地域の話を持ち起こし、50作以上の紙芝居を作成していること、様々な場所へ出かけての紙芝居上演やおはなし会などの活動頻度が月に15回以上というのは大変素晴らしいと思います。しかも、定期的に勉強会を行い、会員の質の向上に努めているという点も評価されました。

○「NPO 山口ヒメ倶楽部」(優秀賞・yab山口朝日放送賞)：くらしづくり分野

女性の社会進出を応援するために、女性たちが中心になって組織だって活動していることが評価されました。まさに女性による女性のための団体です。また、女性起業家の応援だけではなく、すべての女性たちを対象として女性が興味を持っていること、女性たちが元気になるイベントを企画することによって、様々な場所で女性が活躍できる機会を提供したいと考えていることも評価されました。

○「きらめ輝 山口」(優秀賞・山口新聞社賞)：福祉分野

高齢者だけでなく、子育てママや障がいのある方、ひきこもりの方を対象に活動をしていることが今までにはないものとして評価されました。また、メイクをしてあげるだけではなく、本人たちが自発的にメイクに取り組んでいくことができるように支援していることも素晴らしいと思います。メイクの仕方を覚え、より魅力的な自分になって気持ちも晴れやかに一日を送る女性の姿が目につかびます。



最優秀賞（山口県知事賞） NPO 法人 やまぐちレーテ子育て Bambini

代表者 佐藤 光恵（地域づくり分野／山口市）

活動の目的

14年間子育て支援グループママキューピットとして、地域の子育て支援活動をやってきた中で、次のようなことを目指して、2018年11月にNPO法人を設立した。①行政と市民、福祉分野と教育分野の共同と連携による、地域での家庭教育支援と子育て支援活動の必要性②地域での子育てを支える楽しい居場所やしくみづくり③誰もが生き生きと参画できる社会④一人ひとりが自分の可能性を信じて輝ける社会

2019年4月よりNPO法人やまぐちレーテ子育て Bambiniとして活動を展開している。

活動の内容

【子どもの育ち、子育て支援事業】

①子育て支援交流広場「ちゃ☆ちゃ☆ちゃ」の運営

山口市内の地域子育て支援拠点。火曜日から土曜日まで、以下のような様々なプログラムを企画し、親子の交流の場になっている。

『ききみみ講座』『0歳ねんねの会』『双子ちゃんの会』等

②家庭教育支援チーム「山口ゆだ・かべり」

※かべり(kaveri)とはフィンランド語で「なかま」「ともだち」という意味

- ・湯田中学校の空き曜日教室に、中学生と乳幼児親子と地域の人が世代を超えて交流する「湯田中学校ひろば」様々な世代間で子育ての悩みや相談を話し合い、ふれあう場になっている。
- ・地域の子どもの居場所づくり（毎週水曜日、放課後 有料）

【社会参画コンシェルジュ事業】

①子育て支援者養成講座

70歳以上の育G²先生、育Ba²先生を募集して、サポーターとして養成。一時預かりのスタッフや放課後児童クラブの遊びの支援や補助スタッフとして活躍してもらう。

②「キャリアカウンセラーさんがやってくる」(月1回)

プロのカウンセラー（山口しごとセンター講師）が、子育てと仕事の両立など、働きたいママの様々な相談に対応。

これから目指していきたいこと

働き方や家族形態が多様化する近年、核家族の進行やこれまで子育てにたずさわっていた女性やシニア世代の社会進出により、家族や地域での子育て力の低下が危ぶまれている。やはり、子育てを家庭や地域で“支える”という仕組みは安心・安全な子育てには欠かせない。そこで地域のシニア世代のマンパワーを借りて子育てを地域で支え合う仕組みを作り、安心・安全な子育て環境を実現するため

- 1) 子育て支援活動を通じて、シニア世代のリカレント教育活動を実施する
- 2) 子育て支援における地域の担い手を育成するため、シニア世代を対象とした養成講座と実践的な体験講習の開催をめざす



湯田中学校ひろば



養成講座

優秀賞（朝日新聞社賞） 山口子どもの文化研究会

代表者 向谷 静波（子育て分野／周南市）

活動の動機・目的

子どもたちに教育文化の大切さを伝え、真の芸術文化に出会う手伝いをするを目的に会を設立。

活動の内容

紙芝居や絵本、語りを通して後世に語り継ぐ活動

①オリジナル紙芝居の制作

- ・伝説や昔話を掘り起こし、約50冊のオリジナル紙芝居を制作している。「長州ファイブ」「吉田松陰の妹・文」「大内塗り人形」「赤間硯」など
- ・「人間魚雷回天」「とけたビー玉」「平和を見守る徳山大仏」など平和紙芝居を製作
- ・まど・みちおさんの100歳を祝って作ったお話

②様々な場での公演活動（月に10回以上の活動）

- ・小学校の平和授業の一環として出前授業の実施
- ・周南市須々万の教念寺の本堂など大きい会場では、プロジェクターを使用して上演
- ・保育園や高齢者施設、書店において上演

③定例会、勉強会の開催

- ・月に1回、会員全員で行う定例会ではスケジュールの確認と同時に、元アナウンサーの指導を受け、発声練習、音読、演技方などの勉強会を開催し、会員の質の向上に努める

④講演会等の企画

東京から児童文学作家等を招き、保育園や幼稚園、小学校等に派遣する。また地域住民に向けて、精力的に講演会やワークショップを企画している。

- ・2018年11月 「BUNちゃんのSHOWと紙芝居」紙芝居作家の荒木文子さんによる出前講座や研修会
- ・2018年12月 「長谷川義史さんの絵本ライブとワークショップ」
- ・2019年2月 「近藤薫美子さんによる絵本にギュギュっと生命をつめて」

これからめざしたいこと

- ①紙芝居の制作（絵やおはなしづくり）も演じ手も、すべて会員全員で行っている。亡くなった元の代表者がたくさんの紙芝居を制作していたので、引き続き、その紙芝居を伝承していくこと、まだまだ埋もれている地域の昔話や言い伝えなどを新たな紙芝居として制作して、いろいろな場所で演じていきたい。
- ②手づくりの紙芝居だけにこだわらず、既製品の紙芝居やパネルシアターなどにも挑戦し、対象も子どもに限らず、大人にも伝えていきたい。
- ③絵本作家等を招いて行う学習会や講演会も引き続き積極的に行い、あらゆる文化を様々な層に広げていきたい。
- ④学習会や講演会で興味を持った若い方にも、なかまになってもらってよりいっそうの活動の場を設けていきたい。



小学校で読み聞かせ



お寺での紙芝居上演

優秀賞（y a b 山口朝日放送賞）

NPO 山口ヒメ倶楽部

代表者 中村 美香（くらしづくり分野／宇部市）

活動の動機・目的

女性の社会参画の拡大に向けた企業支援は、女性の活躍を推進していくための重要な施策として位置づけられるようになった。

女性ならではの感性や視点を活かした事業が開業されることで、従来にはなかった新たなサービスを市場に提供できる可能性の広がり期待される。その一方で、女性企業家は男性に比べて知識・ノウハウの習得や人的ネットワークを形成することが少なく、起業後も家事・育児・介護等の事情により事業計画が難しくなり、廃業につながりやすい。また一般的には女性はビジネス経験が少なく、企業はしたもの、経営の相談ができる相手が見つからず、孤立してしまいがちな傾向がある。そこで、既に市内で起業された女性たちの相互交流や連携促進等を目的とした市民イベントの開催を通じて、意欲のある女性が、家庭だけでなく地域や職場でも活躍していける社会づくりに貢献していきたいとの思いから活動を企画している。

活動の内容

2016年10月のプレイベントから、2019年12月まで年に3～4回の計13回、少しでも多くの市民の方に企業家を知っていただくため、女性に嬉しいイベント企画を提案している。

・2019/3 『更年期を前向きに&女性企業家応援 in 山ヒメ』宇部市内の産婦人科医による更年期を健康やかに過ごすためのレクチャーや女性企業家による「ボディジュエリー体験&販売」「身体のほぐし体験」などさまざまな出店ブース

・2019/7 『山ヒメ夏休み』誕生学アドバイザーによる「親子で聴こう 生命のおはなし」、子どもたちを対象にした「簡単ヘアアレンジ体験」や「アラフォーからのプチファッションコンサル」など子どもから大人まで楽しめる企画企業家女性同士の横のつながりづくりにとどまらず、ベビーカーで来場される若いママから、未就学児・小学生同伴のママ、お友達同士、お孫さんといっしょになど、幅広い年齢層の女性たちが一日楽しむことのできる憩いの場となり、来場者と出店者の距離が近い交流の場になっている。

女性企業家たちにとっても、イベントの準備活動等を通して人脈を広げ、孤立しやすい女性企業家のモチベーションを高め、事業の継続に繋がっている。

これからめざしたいこと

すでに市内で起業された女性たちの相互交流や連携促進等を目的とした市民イベントの開催を通じて、意欲のある女性が家事だけでなく地域や職場でも活躍していける社会づくりに貢献していきたいとの思いから企画を行っている。企業家としてデビューする女性たちが後ずさりしたり、フェイドアウトせずに事業を継続できるよう応援していきたい。イベントに参加する企業家や市民の方がより楽しめる企画を工夫していきたい。



みんなで盛り上げよう エイエイオー！！

優秀賞（山口新聞社賞）

きらめ輝 山口

代表者 岡部 尚子（福祉分野／山口市）

活動の動機・目的

山口県内で昭和歌謡バンド SHOWA のボーカル「みかん姫」として活躍している代表が、高齢者施設にバンドとして訪問していた時期にエステサロンを開設。歌を聞いていただくと同時に、メイクをしてあげたら喜んでもらえるかなと思って一人で始めた。

「絶対やまぐちを元気にする」という思いで、山口県内における高齢者、障害者、子育てママ等を対象に、メイクやマッサージによって、心理的、社会的な活性化を目的としてメイクボランティア団体を設立した。

活動の内容

①メイクボランティア活動

月1回から数回程度、定期的に、山口県内の高齢者施設及び障害者施設を訪問し、施設利用者の方々に、メイクボランティア活動を実施。

最初は無表情だったり、「恥ずかしい」「いやだいやだ」と言われる方も、眉を描いてあげるだけでまず笑顔になる。「あの店で化粧品を買っていた」「昔はいつもきれいにしちよった」などおしゃべりになることで心がひらかれる。

②ゆめ花博出展

2018年「山口ゆめ花博」で5日間のイベントを実施。有料で行ったが、毎日たくさんの人でにぎわい、県外の人と知り合えたことが収穫。

③勉強会

会員やメイクボランティアに興味がある人たちを対象に、月1回メイクボランティアの心がまえやハンドマッサージ等の練習を行っている。勉強をしたボランティアが施設を訪問することで、受け入れる施設側にも安心感を持ってもらえる。

④メイク講習会

ひきこもりの女性たちを支援する「女子会」でメイクを指導。頬紅のつけ方の指導の時、「にこっと笑って口角をあげて」と言うと、もう幾日も笑ってない、笑い方を忘れていた人たちがいる。それでも根気よく声をかけることで、無理やり口角があがりぎこちない笑顔を見せてくれる。そんな様子を見ると、メイクの効果をしみじみと感じ、毎日続けていくことで、自然な笑顔を取り戻すことができるのではと思う。メイクをしてあげるだけでなく、自分でできるようにしてあげることも大切だと感じている。

これからめざしたいこと

何かボランティアをしてみたいと思っている人、自分のメイクのコツを知りたい人、家族にハンドマッサージをしてあげたいので教わりたい人など、会員の入り口は様々。「ありがとう」と言ってもらえることで、なかまと喜びを分かち合い、嬉しさを倍々にするため一人でも多くの方に活動を知ってもらいたいと会員拡大を考えている。令和2年には宇部支部及び萩田万川支部の立ち上げ、NPO法人資格を令和3年度から5年度に計画している。たくさんのなかまと前を見ながら、山口県に「きらめ輝山口」を広げていきたい。



萩田万川支部メイクボランティア



メイク実演の様子

コープやまぐち奨励賞

よちよち歌劇団 ママ組

代表者 守重 真寿美（子育て分野／柳井市）

活動の動機・目的

山口県では親子向けコンサートが公演されることはほぼなく、あったとしてもなかなか情報は回ってこない。柳井市で公演となると話も聞かない。「それならば、自分たちでやっちゃえ！！」と子育て支援センターで出会ったママさん同士で、子どもたちが喜び観客と一体となって楽しめるコンサートを提供したいと考えたのが初演のきっかけ。次のような目的で活動している。

- ・演奏会やコンサートなどにおいて、子どもを連れての遠出の困難や、子どもが楽しめるコンサートの少なさの現状から、地域で気軽に楽しめる親子向けコンサートの実施。
- ・演奏や音遊びを通して親子の楽しみを増やし子育て応援
- ・子育て中のママたちと同じ目的を持って協力し合い、イベントを成功させることで生涯の仲間づくり

活動内容

「NHKお母さんといっしょファミリーコンサート」（子ども向けミュージカル）に憧れ、H28年、柳井市子育て支援センターぞうさんよちよちクラブにて、会場・背景・大道具などを借り、手作りのコンサート「ママといっしょコンサート」を初演。40組の予約はすぐに埋まり、『本物みたい』『子どもはもちろん、親もなかなかコンサートには行けない。久しぶりに生演奏を聞いて感動した』など、大好評。近年では、衣装や段ボールを使った大道具小道具は全員で制作。

「自分にこんなことができるなんてびっくり！」の素人のママがほとんどだけど、子どもたちの喜ぶ顔が見たくて、歌って踊って子どもたちを飽きさせない40分の舞台をこなしている。

H30年

助成金で、入場無料の親子向けコンサート「ママといっしょ Xmas ファミリーコンサート」をアクティブやない多目的ホールで公演。120組の親子が参加。他にも、子育て支援センターで「花見イベント」「ハロウィンイベント」

「いもほりイベント」など多数。

令和元年

ルンビニ保育園、柳美幼稚園、日積保育園にて「ママといっしょコンサート2019」を公演。

これからめざしたいこと

世代を超えてのママ同士の楽しい付き合いや自分が表現できる喜びを実感しながら、地域の保育園や幼稚園を回ってミニコンサートを実施し、多くの人たちに私たちの団体を知ってもらい、活動の幅を広げていきたい。

たくさん子どもたちと一緒に歌って踊って、夢はおっきく「サンビームやない」での大公演！！



ママといっしょコンサート



歌って、踊って♪

コープやまぐち奨励賞

iikoto メイト

代表者 藤本 健二（福祉分野／宇部市）

活動の動機・目的

健康長寿をめざして長年大正琴の練習に取り組んできた中、宇部市福祉課が企画した認知症予防のプログラムに関わることになり、少子高齢化による地域の課題に気づいた。2010年6月、宇部市の施策「ご近所福祉活動推進事業」のボランティア型に認定された。代表者宅の倉庫を改装して「いつでも、誰でも、集える場所」を開設、12月本格的な活動を開始。「良い琴」「脳にも体にも良い事」「ご近所さんにとって良い事」でiikotoメイトと名付けた。

地域の高齢者の方々が健康でいきいきと暮らせる環境を構築し、活躍できる場、孤独感の緩和の場を提供、生きがいがいづくりのお手伝いをしている。

活動の内容

①毎月の行事

高齢者向けのステップアップ体操や、『もったいない工房』と称し、モノづくりや着物のリメイク作品などの手作りの会やパソコン教室など、毎日さまざまなプログラムを行っている。

会で作った小物や手編みのセーターなどは、福祉祭りや文化祭で販売し、会の運営資金をつくっている。『自分が作ったものが100円でも売れて嬉しい』『来るところがあって、人がおって、やることがあるのはええね』と参加者のやりがい感につながっている。

②大正琴ボランティア演奏を月に6か所程度訪問

③子ども食堂の構想

若い人や子育て世代からの「やろう！」と声が上がリ、準備委員会を作り、寄付金、クラウドファンディング、手作りの品のフリーマーケットで資金を捻出し、現在のiikotoメイトの建物の横に厨房を増設中。2020年3月28日のプレオープンに向けて準備中。

台所を新設することで、iikotoメイトを利用する高齢者の方も台所に立って、子どもや若いママたちと一緒に料理や食事をしたりすることで、新しい交流の広がりが考えられる。

これからめざしたいこと

地域活動をすすめるうえでの課題は①メニュー②担い手③利用者の固定化マンネリ化、および運営費の捻出である。会員全員の創意工夫により活動を発展的に継続していくことと、地域の子どものための課題を考え、新しいチャレンジとして子ども食堂に取り組んでいく。

子どもから高齢者まで、障害の有無にかかわらず、共通の体験を通して多世代多様な交流が、かかわるすべての人の経験を広め、新たな気づきを体感し、多様性の心を育む事、特に高齢者には活躍の場、孤独感の緩和の場を提供して生きがいがいづくりに繋ぎ、児童にはお年寄りをいたわる気持ちを育み、その能力や可能性を延ばすこと、今の子どもたちが抱えている問題解決の手助けとなることを目的に活動していきたい。



いいことスクエアステップ



いいこと子ども食堂試作会

コープやまぐち奨励賞・学生の部

山口学芸大学 子どもの木 サークル

代表者 長田 一菜 (子育て分野/山口学芸大学)

活動の動機・目的

子どもの教育のスペシャリストをみざす仲間たちと一緒に、ボランティアで子どもたちとかかわることで地域に貢献していくこと、また、おたがいに楽しさや喜びを分かち合うと同時に、将来の夢に向かい切磋琢磨していくことを目的としている。

活動の内容

①IBS クラブ (地域の子供居場所づくり)

主に、母子生活支援施設「紗羅の木」の子どもたちを対象に、山口市内の一軒家で、週に1回夕方子どもだけで過ごしている児童・生徒に学習支援や食事の提供を行っている。食事は地域のボランティアが作ってくれるので、学生たちは、子どもたちと一緒に宿題や勉強をしたり、遊んだり、みんなで夕飯を食べている。Xmas 会や年賀状作りなど、季節の工作やイベントを行い楽しんでいる。



紗羅の木と一緒に「いただきます」

②サンタ企画

学祭や SNS 等で募集した山口市や防府市の子どもたちを対象に、保護者が用意したプレゼントやお菓子の詰め合わせをサンタ姿の学生が自宅に「ピンポ〜ン」と届ける企画。今年で10年目。今年は過去最多の40件。年々口コミで増えている。



サンタさんがいっぱい♪

③キャンプ企画

年間通して、周南市や山口徳地青少年自然の家で行われるキャンプに参加協力をしている。今年度初めて、3か月以上前から準備委員会を作り、11月に行われた周南市大田原自然の家「秋の子ども村」一泊二日のキャンプを学生だけで企画し運営した。

④その他

- ・山口県が行う AFPY (アフピー) 研修会に参加

※AFPY・・・Adventure Friendship Program in Yamaguchi

他者と関わりあう活動を通して、個人の成長を図り、豊かな人間関係を築くための考え方と行動のあり方を学びあう、山口県独自の体験学習

- ・警察ボランティア参加
- ・小学校での保護者向け講演会時に、託児ボランティアを行う
- ・児童福祉施設や支援学校での学習支援や交流

これからめざしたいこと

将来、保育者や教育者をめざす私たち。この会での体験や学習、かかわりを通じて「学校に行くのが楽しいと思ってもらえる教室づくりがしたい」「寂しい思いを持つ子に寄り添える大人になりたい」「保護者との付き合い方を学んだ」など、将来の夢をより確かに、そして具体的なものにすることができた。

今以上に地域とのかかわりを大事にして、子どもたちとふれあう場をたくさん作っていくこと、山口学芸大学子どもの木サークルを知ってもらえるよう、様々な機関に働きかけていきたい。

コープやまぐち組合員賞 “わ”の会

代表者 岡田 桂子（くらしづくり分野／山口市）

活動の動機・目的

2004年私たちの住んでいる小郡長谷西区婦人部ボランティアの会で、「自分たちが転んで寝たきりにならないための取り組みが大切だ。そのためにできることは何か？」と話し合い、模索していた時に「アメリカでは太極拳が転倒防止の決め手として注目されている」という記事に出会い、『転んで寝たきりになる人ゼロの地区に』とのスローガンを掲げて“わ”の会を立ちあげ、まずは女性が中心となって『区民で太極拳を楽しむ活動』を開始した。

活動の内容

- ①山口市小郡長谷西区民、市内の希望者を対象に、週に1回講師を招いて太極拳を練習する他、自主的にストレッチや筋トレを行っている
- ②毎年夏に行われる長谷西区の夏祭りで太極拳を披露し、普及に努めている
- ③足腰の機能が衰えた人でも実施可能な「座位での太極拳」に取り組んでいる
- ④2020年1月「キラキラ輝く100年人生」と題して、山口大学教育学部の丹信介教授の講演と太極拳演武のコラボを企画し、200人以上の参加者にご来場いただき太極拳の魅力を伝えることができた



きらきら輝く100年人生の様子

取り組みの成果

- ・2006年、丹信介教授にお願いして半年間の活動前後で測定をしてもらったところ、筋力年齢で27歳近く、バランス年齢で19歳若返っていることがわかった。
- ・メンバーの一人は、83歳の時に、不慮の事故で仙骨を骨折し、当初は「寝たきりになるのでは？」と心配していたが、その後、周囲の医療関係者から「驚異的」と言われる回復ぶりを見せ、3か月後には補助具なしで歩けるようになった。太極拳で培った筋力と仲間からの励ましが力になった。
- ・『寝たきりゼロ』を合言葉に始めた太極拳は、心身共に健康になれるだけでなく、生きる勇気をもたらす「わ」となり、命の要・源になっている。

これからめざしたいこと

最近のハーバード大学の報告によると「太極拳は認知症予防にも効果的」であることがわかっている。

“わ”の会では、すでに「座ってやる太極拳」などの新しい取り組みを始めているが、今後、多忙な男性や幅広い年齢層の方にも参加してもらえるように工夫して、地域の健康の輪を広げていきたい。



下川先生と丹教授

コープやまぐち組合員賞 オカリナ宙（そら）

代表者 乗兼 香代子（くらしづくり分野／下関市）

活動の動機・目的

20年間、施設の二人部屋に入所していた代表者のお父さんに音楽を聞いてもらいたいと思ってオカリナを持参して吹くと、お父さん同様、同室の方もとても喜ばれて「バラが咲いた」をリクエストされた。それ以来、何度か訪れ喜んでもらったのがきっかけとなる。

オカリナの音色で心を癒してもらい、また童謡・唱歌・抒情歌を共に歌い、心の栄養になって、元気に笑顔で交流を図ることを目的としている。

活動の内容

メンバーそれぞれ高齢者と生活をしていて、なかなか自分の自由になる時間が無いなか、週に1回2時間の練習をしながら以下の年間ステージを全員でこなしている。歌詞カードの作成から会計など、5人がそれぞれ分担しながら会を運営している。平成30年度は21会場で演奏活動

- ・指定就労継続支援事業生涯福祉サービスうしろだ工房でのお楽しみ会（6回／年）
- ・内日れんげ畑で、内日やまびこ会（皿回し）とコラボした野外演奏会
- ・山口オカリナフェスティバル in 秋吉台
- ・第9回ドリームシップ祭りでギターとのコラボ演奏
- ・赤い羽根共同募金チャリティ昼の集い
- ・下関身体障害者福祉センターでのクリスマス会
- ・JR 新下関駅クリスマスコンサート
- ・通所介護施設でフルートとのコラボ演奏
- ・田中絹代記念館「歌の花束」でピアノとのコラボ演奏
他、多数

これからめざしたいこと

耳の悪い方への手話などを学びながら少しずつ取り入れ、時には一緒に体操をしながら、よりたくさんの方に音楽を楽しんでもらっている。

私たちの演奏を黙って聴くだけではなく、観客も一緒に歌も歌い、大いに笑って元気になってほしい。

県内のオカリナ愛好家が集い、交流してきた「山口オカリナフェスティバル」は過去8回行われてきて、次年度の開催が危ぶまれている状態。皆、とても楽しみにしているので下関市在住の演奏家と協力しながら開催し、オカリナの音色を響かせたい。



認知症カフェ新秋根の風景



豊浦小学校 夏休み児童クラブ

コープやまぐち組合員賞 大歳お花づくりの会

代表者 大窪 寿子（福祉分野／山口市）

活動の動機・目的

大歳地区社会福祉協議会では1991年から3回、75歳以上の独り暮らしの方に「ふれあい弁当」を届ける作業を行っている。1996年にその「ふれあい弁当」に季節のお花『ペーパーフラワー』を添えたら、次回のお弁当まで楽しめてもっと喜んでもらえると思い、心ばかりのボランティアがしたいとお花づくりを始めた。始めてからの3年後、社協から材料費が出ることになり公民館だよりで地域住民の参加を呼び掛け、年々参加者の輪が広がってきた。



大歳お花づくりの会のみなさん

目的

- ①メンバー自身の生きがいやメンバー同士のふれあい交流の場
- ②大歳地区の高齢者等の福祉の増進に寄与する

活動の内容

- ①「大歳ふれあい弁当」に添えるお花づくり

11月と3月、75歳以上の独居の方に配布する「ふれあい弁当」に添えるペーパーフラワーづくり。1回に220本作成。年に2回で計440本作成。最近ではお弁当には大歳小学校の子どもたちの描いた「お便り入りの色付けした掛け紙」と「手書きの絵付け箸袋」を添えた弁当になっている。

- ②「大歳地区敬老祝賀会」のお土産

毎年9月に開催される「大歳地区敬老祝賀会」の参列者にお土産としてペーパーフラワーを配布。380本作成。

- ③「飾り額づくり」

4～5年に一度ふれあい弁当対象者全員に飾り額を新調している。とても手間がかかるため、一年間かけて作りためている。他にも、様々な場でペーパーフラワーづくりの体験会を行い活動を広めている。

これからめざしたいこと

- ・住み慣れた地域で楽しく過ごしていくためには、隣人や友人とのつながりが大切である。そのためにも地域みんなが誘い合って気楽に参加できる会、趣味にとどまらず、自分なりにできることで地域のために役立つことができる会、そんな「居場所」を目指していきたい。
- ・高齢者のみならず、子どもたちや障害者福祉にももっともっと寄与できる「大歳お花づくりの会」にしていきたい。

はじめてお弁当にお花を添えた時、お弁当を配っている民生委員さんから「みんなからとても喜ばれたよ。届けたわしも嬉しくなった！これからはずっと続けてよ。大窪さん、死ぬまでやめられんよ～」と言われ、飛び上がるほど嬉しかった。この言葉を胸に、「生涯現役」の精神でいつまでも元気に多くの仲間と支え合いながら、「できるときに、できる数だけ、無理をせず、楽しんで造る、みんなが主演」をモットーに楽しくこの会を続けていきたい。



ふれあい弁当と椿